

信楽高原鐵道株式会社に係る出資法人経営評価の結果等について

1 出資法人経営評価の趣旨

出資法人の経営状況や活動の内容、点検評価の結果などを適切に把握し、運営の状況等を評価するとともに、これを踏まえた必要な関与を行うもの。

2 法人の概要

- (1) 設立年月日 昭和 62 年 2 月 10 日
- (2) 所在地 甲賀市信楽町長野 192 番地
- (3) 事業概要
地域住民および通学生、通勤者、観光客を輸送する公共交通機関
営業区間および距離 信楽駅～貴生川駅 14.7km、所要時間 約 24 分
駅数 信楽駅、玉桂寺前駅、勅旨駅、雲井駅、紫香楽宮跡駅、
貴生川駅 計 6 駅
車両数 4 両
運行数 15 往復/日
- (4) 県出資額および出資比率 149,000 千円、約 34.5%
- (5) 役職員数 役員数 10 名（取締役社長 1 名、専務取締役 1 名、取締役 6 名、
監査役 2 名）、従業員数 20 名

3 令和7年度の実績

(1) 事業実績

項目	令和 7 年度	前年度 (令和 6 年度)	前年度比
輸送人員	332,446 人	328,634 人	101.2%
(内訳) 定期	225,480 人	221,040 人	102.0%
定期外	106,966 人	107,594 人	99.4%
旅客収入	73,691 千円	74,372 千円	99.1%
(内訳) 定期	35,216 千円	35,048 千円	100.5%
定期外	38,475 千円	39,324 千円	97.8%

4 経営評価の結果概要

(1) 事業に関する事項

「秋のしがらきフェス」の開催や日本で初めて本線を使用した「軌道自転車乗車体験」の実施、また前年度に引き続き甲賀市内の保育園等に伺い、サンタ列車の魅力伝える営業活動などを行い、利用者のニーズに応えたところである。

今後も沿線人口の減少や生活様式の変容による移動需要の減少、人件費の増加、物価高騰など、厳しい経営環境の継続が想定されるが、社会情勢に的確に対応し、事業の多角化等を進めることが必要である。

(2) 財務に関する事項

前期に続き令和7年度においても、旅客輸送収入の減少だけでなく、修繕や燃料費高騰への対応などにより経常損失を計上した。安定した運営を確保するため、コロナ禍を契機とした社会情勢の変化や沿線人口の減少に的確に対応し、収支改善を行い、財務の安定化を図っていくことが急務である。

(3) 県の取組

- ・信楽高原鐵道線への支援として、第三種鐵道事業者（甲賀市）に対し、整備費等に係る補助金（信楽高原鐵道線保安設備整備等補助金）による支援を行っている。施設の更新、改良を適宜適切に進めることにより、鐵道事業を運営する上での安全運行の維持、経営の安定化に貢献している。
- ・信楽高原鐵道株式会社と連携し、イベントの周知や電動キックボードの設置検討など、魅力発信や利用促進に取り組んでいる。